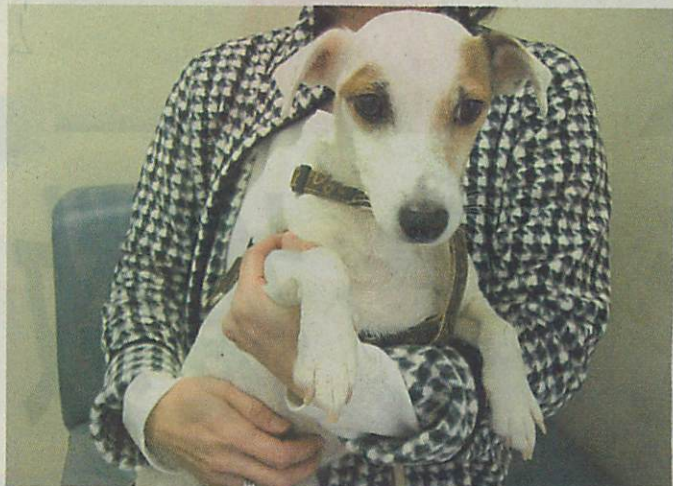


動物の診察室から

○ 43 ○

ジャックラッセルテリアのみかんちゃんは、5歳の女の子です。昨年9月に皮膚病がなかなか治らないとのことで来院しました。皮膚の症状から、膿皮症が強く疑われたため、抗生剤の内服治療と、皮膚の雑菌を押しやるシャンプーをしてもらうことになりました。膿皮症とは、犬の皮膚にブドウ球菌などの細菌が多くなり、皮膚の表層が化膿してフツツと赤

きまりましたが、あまり反応はよくありませんでした。1カ月経っても、皮膚の病変がまだあるので、普通の膿皮症ですと3週間くらいの治療で治ることがほとんどです。培養検査の結果で真菌も少し出たので、真菌の薬も追加されましたがあまり良くありませんでした。



皮膚がきれいになったみかんちゃん

皮膚の病理検査の結果も「膿皮症」で、みかんちゃんの皮膚病が治らなかつたのは、食事に混ぜて投与した抗生剤が、食道に長くとどまっており、うまく薬が体に吸収されなかつたためと考えられました。

検査の大切さを再確認

膿皮症とは、犬の皮膚にブドウ球菌などの細菌が多くなり、皮膚の表層が化膿してフツツと赤

治らない皮膚病

い発疹ができません。かゆみが強いため、わんちゃんには患部を舐めたり掻いたりして、症状が進行することがあります。みかんちゃんも、体のあちこちに赤いフツツができて脱毛しており、とてもかゆがっていました。みかんちゃんの皮膚病は、治療後少し改善して

た。治療に反応しない場合には、まれにリンパ腫などの場合もあるため、皮膚の一部を採取して、病理検査を行う必要があります。その検査の結果、みかんちゃんには巨大食道症があることが判りました。

胃が荒れたと思われる。しかし、治療後1カ月半が経ち、皮膚病は治らないため、いよいよ皮膚生検を行うことになりました。その検査の際に、レントゲン検査を行ったのですが、その検査で、みかんちゃんには巨大食道症があることが判りました。

巨大食道症は、食道が非常に大きくなってしまい、食べたものがすぐに胃に行かず食道に溜まってしまいます。巨大食道症の場合には、食後すぐ食べたものをもどしてしまう症状があるのですが、みかんちゃんの場合には、時々嘔吐があるだけでした。原因はいろいろあるのですが、さまざまな検査の結果、特に巨大食道症の原因が特定

できませんでした。皮膚病の治療では、初診時にレントゲンを撮ることはあまりないので、ものを言わない動物の診察では、いろいろなことを考えて検査をしていく必要があることを、みかんちゃんが教えてくれました。みかんちゃん、ありがとうございました！